

操縦士の健康管理について（要望）



2024年8月28日



操縦士の高齢化に対応するため、安全性を担保したうえで
現在の国際基準を超えて60歳以上に課されている
付加的規制の見直しを図ってほしい

**シニア人材の更なる活躍による
訪日客6000万に向けた
リソースの最大化**

スクリーニング検査・付加検査廃止に向けた考え方

- ✓ 乗務中の急性機能喪失に繋がる恐れのある冠動脈疾患は、若年層でも見受けられる
- ✓ 検査のための服薬が散見される

スクリーニング検査・付加検査に代えて、操縦士としての社会的責務を全うし、
現役として長く活躍するために、若年期から継続的に健康管理を行うこと
が適当なのではないか

<見直しのポイント>

1

安全運航を堅持した
より実効性のある健康管理

2

操縦士自身が健康意識を高く持ち
若年層からの健康管理を行う
更なる動機付け



見直しの方向性

事業者における日常的な健康管理の徹底による操縦士の健康増進

＜事業者のアプローチ＞

1

**安全運航を堅持した
より実効性のある健康管理**



事業者主体による健康管理

それぞれの事業形態や勤務環境に合わせた目標値を事業者毎に設定し、フォロー項目における健康状態を乗員健康管理医が把握し指導を行うこと、必要と認める情報については指定医と共有することでより実効性のある健康管理が実現。

2

**操縦士自身が健康意識を高く持ち
若年層からの健康管理を行う
更なる動機付け**



若年層からの健康管理

操縦士自身の健康維持と将来に渡って活躍し続けるため、日々の健康管理におけるフォローや教育を通じて、操縦士自身の健康意識の醸成を図っていく

事業者が主体となり健康管理を行い
操縦士自らも若年期から健康意識の醸成を図ることで
**安全運航を堅持し、現役として長く活躍するための
予防目的の本来の健康管理の目的が達成される**